

いろいろな場所でたくさんの人々によって使用されているフランス語。芸術、ファッション、食文化など、さまざまな文化的事象と密接に結びついているフランス語。使える言語、楽しめる言語としてのフランス語を、これからぜひ一緒に学んでいきましょう！



## Bonjour tout le monde! — みなさんこんにちは！

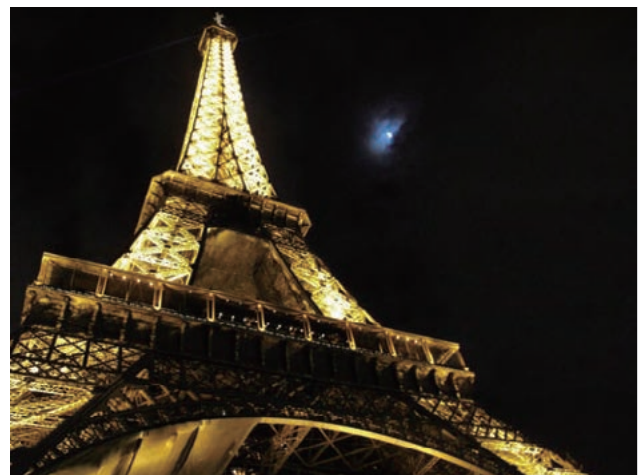
なぜフランス語を勉強するんだろう？このような問いに対し、すでにフランス語に携わっている私たちフランス語教師であれば、簡単に次のように答えるところです。すなわち、それはフランス語が楽しいからだ、と。でも、どの外国語を選ばよいかと迷っている新入生のみなさんに対して、これでは説明になりませんよね。そこでこれから、フランス語の魅力についてできるだけ具体的かつ簡潔にご紹介していきましょう。

## フランス語は使える！—フランスの言語、フランス語圏の言語、国際機関の言語

外国語を学ぼうとするときにまず頭に浮かぶのは、やはり、その言語が実際に利用できるものであるかどうかという問いではないかと思います。フランス語はいったい、どのような場面で役に立つのでしょうか。

### フランスで使う

言うまでもなくフランス語はフランス共和国において国語として用いられている言語であり、したがってフランスを訪れるときに役に立ちます。エッフェル塔、シャンゼリゼ、ルーヴル美術館といった数々の観光名所を持つ首都パリをはじめ、モン・サン＝ミシェル、ニース、シャモニーなど、一度は訪れてみたい場所がフランスには目白押しです。そんなフランスに憧れている人も少なくないでしょうし、そんな人はおそらく、迷わずフランス語の勉強に取り掛かることでしょう。



### フランス語圏で使う

そしてまた、フランス語は、フランス以外のさまざまな国々においても公用語や準公用語として使用されています。ベルギーやスイスなどヨーロッパの他の国々、さらにはカナダのケベック地方やとりわけアフリカの一部の国々に興味を持っている人にとって、フランス語はやはり学んでおきたい言語です。もち

ろん、こうしたいわゆる「フランス語圏」の地理的広がりには、英語やスペイン語などの場合と同様、政治や経済においてのみならず言語においても弱小国を支配しようとした植民地主義ないし帝国主義という歴史的背景があることを忘れてはなりません。

## 国際舞台で使う

これに加えて、フランス語は、かつてはヨーロッパにおける外交語として通用していたという歴史を持ち、現在でも国際連合などの国際機関の公用語の一つとなっているということを指摘しておかなければなりません。みなさんにも馴染みの深い例を挙げるなら、オリンピック競技大会。近代オリンピックを創設したのはフランスのクーベルタン男爵であり、オリンピック大会でのアナウンスがまずフランス語から始まることをご存じの方も多いでしょう。将来、国境を越えた活躍を目指す人にとって、フランス語を習得することは一つの戦略として有効であろうと思います。

このようにフランス語は、古くからいろいろな場所で使われてきたし、今もなお使われています。フランスでフランス語を使う。フランス語圏でフランス語を使う。国際舞台でフランス語を使う。要するに、フランス語は実際に「使える」言語なのです！

## フランス語は楽しい！— 芸術、ファッション、食文化、etc.

でもここで、次のような疑問が浮かぶかもしれません。確かにフランス語はコミュニケーションの道具として役に立ちそうだけど、もしそれだけだとしたら、とりあえずは英語だけでよいのではないのか、と。グローバル化が進む現在、もう一つ別の言語を学ぶ時間があつたら英語力を磨くべきだ、といった種類の議論が、実際、いろんなところでなされています。

でも、思い出してください。最初に述べたとおり、他ならぬ私たちフランス語教師自身が、何よりもまず、フランス語を楽しんでいるということ！道具として利用可能であるかどうかということ以前に、フランス語は学んで楽しい言語です。その理由はたくさんありますが、ここではとくに、フランス語が芸術、ファッション、食文化など、私たちに喜びを与えてくれるさまざまな文化的事象に強く結びついているという点についてご紹介したいと思います。



## 芸術の言語

まず、言語芸術としての文学について。ボードレールの『悪の華』、メリメの『カルメン』、ユゴーの『レ・ミゼラブル』、カミュの『異邦人』など、フランス語で書かれた詩、戯曲、小説を、みなさんもすでにくつかがご存じではないかと思います。また、2008年にノーベル文学賞を受賞したル・クレジオや、2014年に同賞を受賞したパトリック・モディアノといったフランス人作家の名前を聞いたことのある方もいらっしゃるでしょう。翻訳ではなく原書で読むことができれば、いっそうフランス文学の世界に引き込まれること請け合いです。



次に絵画について。フランス絵画と聞いて、マネ、モネ、ドガ、ルノワールなど日本でも人気の高い印象派のフランス人画家の絵画を思い浮かべる方は多いでしょう。また、とくに20世紀初頭、「芸術の都」パリが、ピカソやシャガール、モディリアーニなど、数多くの画家たちを呼び寄せたことを指摘しておきます。モンマルトルやモンパルナスのカフェやバーにおいて、熱い芸術論議がかわされたことでしょう。

それから映画についてもひとこと。映画が、19世紀の末にフランスのリュミエール兄弟とともに誕生したということをご存じでしょうか。そして1950年代末にやはりフランスに起こった「ヌーヴェル・ヴァーグ」(新しい波)と呼ばれる運動は、世界中に多大な影響を与えることになりました。また、近年人気を博したフランス映画としては、2001年に公開され、日本でもブームになった『アメリ』があります。この映画に主演し国民的女優になったオドレイ・トトゥの他にも、シャルロット・ゲンズブールやバネッサ・パラディなど、日本でも有名なフランス人女優が数多くいます。

そして最後にももちろん、バレエを忘れてはいけません。「太陽王」ルイ14世がバレエの愛好家であったという事実に象徴されるとおり、バレエはもっぱらフランスで発達した芸術であり、その振付用語のほとんどがフランス語です。その他、音楽や演劇など、さまざまな

顔を持つフランス芸術の虜となってフランス語を始め、現地に留学して勉強を続ける人も少なくありません。

## ファッション、食文化の言語

ここまで、フランス文化の中でも、日本人に馴染みの深いいくつかのものを挙げてきましたが、それでも、フランスやフランス語はやはりなんだか遠い存在に思えるという方もいらっしゃるかもしれません。そこで、次にファッションや食文化など、私たち日本人にとっても非常に身近なところにあるフランス文化について紹介していきたいと思います。まず、日本語でも使うフランス語の言葉の例をいくつか挙げたいと思います。

| 食文化に関することば                                                                      | ファッションに関することば                                               | その他                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| マカロン、ショコラ、ミルフィーユ、マロングラッセ、フィナンシエ、サブレ、タルト、クロワッサン、バゲット、カフェオレ、キッシュ、ラタトゥイユ、グラタン、クレープ | シュシュ、シニオン、ビジュ、ルージュ、カシュクール、マキアージュ、モード、プレタポルテ、オートクチュール、オードトワレ | アンケート、エチケット、コンクール、アヴァンチュール、デジャヴ、クレヨン、クーデター、ヴァカンス、マルシェ、サロン、グランプリ |

みなさんもよく使う言葉が多いのではないのでしょうか? このように、フランス語・フランス文化は私たち日本人の毎日の生活の中でも身近なところに存在しています。まずファッションについて言えば、世界的規模の「パリ・コレクション」が示すとおり、フランスはモードの重要な発信地。実際、私たちの身の回りに目をやってみると、ディ



オールやエルメスなどフランスの高級ブランド店や、フランス語の名を持つ日本のブティックでいっぱいです。

食文化に関しても、いろんなことが思い浮かぶのではないかと思います。星の数によってレストランを格付けするミシュラン社のガイドブックや、解禁日がお祭りとなるボジョレー・ヌーヴォー。そしてマカロンやショコラ、タルトなどのお菓子！おいしく食べることの探究に情熱を燃やしつつ、料理やお菓子づくりを学ぶためフランスに旅立つ人もやはり数多くいるようです。

もちろん、芸術やファッションや食文化を楽しむために、フランス語がぜひとも必要であるというわけではありません。でも、たとえば、もし絵画のタイトルや映画のセリフの言葉遊びを少しでも理解できたとしたら、もし香水やマカロン一つ一つに授けられた名前の意味がわかったとしたら、そのときにはきっと、より大きな楽しさ、プラスアルファの喜びを手に入れることができるに違いありません。そうした喜びや楽しさを贅沢と呼ぶとすれば、フランス語 "de luxe" に由来する言葉を使って、いかにもフランス語を学ぶことは「デラックス」な体験なのだ、とすることができるでしょう。

いろんな場所でたくさんの人々によって使用されているフランス語。芸術、ファッション、食文化など、さまざまな文化的事象と密接に結びついているフランス語。使える言語、楽しめる言語としてのフランス語を、私たちと一緒に学んでいきましょう！

## さらなる一歩 — 仏検、短期留学、長期協定留学

せっかく学び始めたフランス語。これを1年間で終わらせるのはもったいない、もっと学び続けたい、という新たな願望が生じるかもしれません。そんなときにはぜひ、中級者、上級者向けの授業に挑戦してください。

そしてますますフランス語に魅せられてしまい、さらにもう一歩先へ進みたい、という人のために、フランス語検定、短期留学制度、長期協定留学制度について簡単にご紹介しておきましょう。大学の外へ、日本の外へ飛び出してみてください！



### 実用フランス語技能検定試験

フランス語教育振興協会（APEF）がおこなっている、通称「仏検」。1年生で4級、2年生で3級、などと目標を決めて勉強すると効果的です。明治学院大学では仏検対策の授業も開講しています。

### 短期留学

国際交流センター主催によるフランス夏季短期留学プログラム。夏休み中の一ヶ月間、パリ市中心部にあるパリ・カトリック学院で学びます。横浜キャンパスにおいて、短期留学対策の授業も行われています。

### 長期協定留学

明治学院大学では、3つのフランスの国立大学と長期協定留学の提携を結んでいます。南フランスの大学都市エクサンプロヴァンスにあるエクス政治学院、歴史の街として知られるレンヌ大学、そして地中海に臨むコートダジュール地方のニース大学。それぞれ独自の文化をもったこれらの街で、1年間にわたる勉強はかけがえのない経験になること間違いなし。

短期留学・長期留学とも、初めてフランスで暮らす学生のために十分配慮がなされ、サポート体制がしっかりしているプログラムです。フランスで生きたフランス語を学び、生のフランス文化に触れることは、大学で学んだフランス語力をさらにアップさせ、異文化体験をする絶好の機会です。そして何より、留学は世界中のさまざまな国の学生と友達になるチャンスなのです！



## フランス語関連情報

その他、フランス語に関するさまざまな情報をインターネットから簡単に手に入れることができます。ここではそのなかからみなさんの参考になりそうなものをいくつかご紹介しておきます。

**外務省 チャレンジ41ヶ国語（第7回フランス語）** <http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/staff/challenge/int07.html>

**NHK 語学番組 フランス語の番組** <http://www.nhk.or.jp/gogaku/french/index.html>

**フランス語教育振興協会 (APEF)** <http://apefdapf.org/>

**日仏学院** <http://www.institut.jp/>

**アテネ・フランセ** <http://www.athenee.jp/>

ではまた、近いうちにお会いしましょう— À bientôt!